

地震予知とあなたのくらし①

判定が出たらどうすべきか

では、判定を知ったとき、みんなはどう行動すればよいでしょうか。判定の内容にもよりますが、ここでは「数時間以内に大きな地震が発生する可能性がある」という判定が出た場合に、どうすればよいか考えてみましょう。

この場合、まず政府をはじめ、県や市町村、その他の関係機関は、ただちに非常体制に入ります。そしてテレビ、ラジオや広報車などを通じて、必要な情報をみなさんにつたえ

るとともに、地震が発生する前にできるかぎりの対策を実施することになっています。特に消防、警察など防災活動の主力となる機関は、地震がおこる前の混乱をふせいだり、危険な場所にあらかじめ待機したり、いざ地震が発生したときすぐ出動できるように準備したりします。

このような状況のもとでの、家庭と職場におけるみなさんの心得を、自治省消防庁の協力を得て、それぞれ10カ条にまとめてみました。

判定が出たら…家庭での心得10カ条

1. すぐ家庭の防災会議

たとえば、火の始末はだれがするのか、幼児や老人の避難はだれが責任をもつのか、など各人の分担を話し合って決めておこう。

2. 家の中ではつぶされないようにしよう

とりあえず、身をおく場所をたしかめよう。重い家具を壁にとめ高いところから重いものやガラス類をおろそう。すじかいなどで家の補強をしよう。

3. 火はできるだけ使わないようしよう

地震でこわいのは火災です。や

むをえず火を使うときは、そばに人がいるようにするか、地震で自動的に消えるものにしよう。

4. 危険物などの安全に注意しよう

灯油、ベンジン、食用油など燃えやすいものは、安全な容器に移し火元から離そう。プロパンガスのボンベは元栓をしめ、倒れない

よう鎖などで固定してあるかたしかめよう。

5. 水や消火器を用意しよう

万一火がでてもすぐ消せるよう消火器やバケツを用意しておこう。風呂にも水を張ろう。

6. 正しい情報をつかもう

テレビやラジオのスイッチは常に入れておこう。また、市役所、警察署や消防署などからの情報には、たえず注意しよう。

7. 身軽で安全な服装に着がえよう

作業にも便利で、最悪の場合そのまま逃げられる服装にすぐ着がえよう。ズキンやヘルメットもつけておこう。

8. 非常持出品をたしかめよう

水、食料、ラジオ、懐中電灯、



医薬品など、非常持出品がそろっているか、たしかめよう。あわてて買物に走っても手に入るとはかぎらない。ふだんから用意しておくことが大切。

9. 避難場所などをたしかめておこう

10. 隣近所で助け合い

7月の当直医



休日当直医院は、富士市医師会が急病患者のために定めたものです。当直医院は急病のときだけご利用ください。

■7月9日

外科 中央病院(本市場 61-8800)
石川医院(浅間本町 52-1985)

産婦人科 崎田医院(平垣 61-3100)

■7月16日

外科 山崎医院(厚原 71-3315)

吉原病院(南町 52-0780)

産婦人科 中央病院(本市場 61-8800)

■7月23日

外科 宮下医院(平垣 61-0376)

渡辺病院(錦町1 51-3751)

産婦人科 武田医院(西宮島 63-5122)

■7月30日

外科 藤井医院(松岡 61-7811)

米山医院(今泉1 52-0275)

産婦人科 望月医院(西北奈 34-0445)

*内科、小児科は富士医師会が「医療センター」で行っています。診療時間は午前9時から午後5時までです。ただ

し受付時間は4時30分までです。医療センターでは、日曜祭日以外は行なっておりません。



医療センターの住所は「富士市伝法字杉ノ木2850-2(長者町)」電話は52-3104です。